

病害虫発生予察情報 第1号

富山県農林水産総合技術センター所長

4月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期		
水稲	トリコデルマ、リゾープス、フザリウムによる苗立枯病	やや多い	—	果樹	りんご	リンゴコブアブラムシ	少ない	並	
	ピシウムによる苗立枯病	並	—			カイガラムシ類	やや多い	並	
	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病による苗立枯性病害	並	—		日本なし	黒星病	やや多い	並	
	褐条病による苗立枯性病害	並	—			カイガラムシ類	多い	並	
	ばか苗病	やや少ない	—			ニセナシサビダニ	やや少ない	並	
大麦	雲形病	少ない	—		ぶどう	ハマキムシ類	やや多い	並	
	うどんこ病	並	—			黒とう病	並	並	
	赤かび病	並	並		晩腐病	やや少ない	並		
野菜	タマネギ	べと病	やや多い		やや早い	かき(三社)	フジコナカイガラムシ	少ない	並
							もも	せん孔細菌病	やや少ない
果樹	りんご	黒星病	少ない	並	花き球根	チューリップ	褐色斑点病	並	やや早い
		褐斑病	やや多い	並			モザイク病	やや多い	—
		うどんこ病	少ない	並			アブラムシ類	並	早い
		ハダニ類	多い	並					



I 水 稲

1 トリコデルマ、リゾープス、フザリウムによる苗立枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・ 4月の気温は平年並と予想されている。(±)
 - ・ R6年用種子の休眠はやや深く、芽のそろいがばらつく傾向がある。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・ 育苗資材の衛生管理と育苗期間のハウスの適正な温湿度管理（昼間 25℃以上にならないように管理し、多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。
 - ・ 浸種積算温度の目安は 120℃程度とし、平年に比べ浸種日数を 1～2 日程度長くする。
 - ・ 防除指針（令和 5 年度）：16～17 ページ参照

2 ピシウムによる苗立枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 4月の気温は平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・ 育苗資材の衛生管理と育苗期間のハウスの適正な温湿度管理（5℃以下にならないように管理し、多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。
 - ・ 防除指針（令和 5 年度）：17～18 ページ参照



図 1 ピシウム菌罹病苗

3 もみ枯細菌病、苗立枯細菌病による苗立枯性病害

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 4月の気温は平年並と予想されている。(±)
 - ・ 種子消毒が徹底されている。(－)
- (3) 防除対策
 - ・ 種子の比重選を実施する。
 - ・ 種子消毒を徹底する。温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守し、催芽前または催芽時に食酢処理や生物農薬を併用し防除効果を高める。
 - ・ 出芽期の温度は 30℃、緑化期以降は 25℃以上とならないよう育苗器の設定やハウス内の換気に努める。
 - ・ 有機物含量の高い軽量培土を使用することにより発病を抑制できる。
 - ・ 防除指針（令和 5 年度）：11～19 ページ参照



図 2 もみ枯細菌病によって枯死した苗

4 褐条病による苗立枯性病害

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・4月の気温は平年並と予想されている。(±)
 - ・種子消毒が徹底されている。(－)
- (3) 防除対策
 - ・種子消毒を徹底する。温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守し、催芽前または催芽時に食酢処理や生物農薬を併用し防除効果を高める。
 - ・出芽期の温度は30℃、緑化期以降は25℃以上にならないよう育苗器の設定やハウス内の換気に努める。
 - ・防除指針（令和5年度）：11～19 ページ参照



図3 褐条病に罹病した苗

5 ばか苗病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・種子消毒が徹底されており、前年育苗障害調査の発生箇所率は0.0%で平年(8.7%)より低かった(－)。
- (3) 防除対策
 - ・育苗資材の衛生管理を徹底する。
 - ・種子消毒を徹底する。温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守し、催芽前または催芽時に食酢処理や生物農薬を併用し防除効果を高める。
 - ・防除指針（令和5年度）：11～15 ページ参照



図4 ばか苗病によって徒長した苗

II 大 麦

1 雲形病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・近年の発病が少なく、種子の保菌程度が低いと予想される。(－)
- (3) 防除対策
 - ・排水対策を徹底する。
 - ・防除指針（令和5年度）：51ページ参照



図5 雲形病罹病株

2 うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 3月10日調査では発生は認められなかった（発病度の平年値0.1）。（±）
 - ・ 3～4月の気温はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・ 発生初期に薬剤による防除を実施する。
 - ・ 防除指針（令和5年度）：50ページ参照

3 赤かび病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 4月の気温は平年並と予想されている。（±）
 - ・ 4月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・ 開花時に曇雨天が続くと多発生することから、降雨が続く場合でも雨の晴れ間をみて穂揃期とその7日後の2回の防除を確実に実施する。特に1回目の防除は、可能な限り液剤による防除を行う。
 - ・ 防除指針（令和5年度）：51ページ参照



図6 赤かび病罹病穂

Ⅲ 野菜

1 タマネギのべと病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
- ・ 定植後の前年10～11月の平均気温は14.7℃で平年(14.1℃)よりやや高かった。（+）
 - ・ 前年12月～当年2月までの気温の平均は5.6℃で平年(4.0℃)よりやや高く、暖冬傾向であった。（+）
 - ・ 3～4月の気温は平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・ 春先に越年罹病株に形成された分生孢子によって二次感染が起きる。越年罹病株の抜き取りを行うとともに、3月中旬～4月上旬の初発直前に治療効果のある薬剤を散布する。
 - ・ 防除指針（令和5年度）：102～103ページ参照

IV 果樹

1 りんごの黒星病

(1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(－)
- ・4月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±)



図7 黒星病の初期病斑(左) 症状が進行した病斑(右)

(3) 防除対策

- ・開花直前及び落花直後は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が開きすぎないこと、開花期間中に実施しないことに注意し、適期防除に努める。
なお、果樹研究センターにおける平年の「ふじ」の開花始期は4月20日、開花盛期は4月25日である。
- ・防除指針(令和5年度)：137、140～141、145～146 ページ参照

2 りんごの褐斑病

(1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量はやや多かった。(＋)
- ・4月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±)



図8 褐斑病の初期病斑(左)と進行した病斑(右)

(3) 防除対策

- ・前年に発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、春先からの薬剤の散布量を十分確保するとともに、被害落葉を園地外に持ち出すか乗用草刈り機で粉碎するなど、落葉処理を徹底する。
- ・防除指針(令和5年度)：137、139～141、145～146ページ参照

3 りんごのうどんこ病

(1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(－)
- ・4月の気温は平年並、降水量は平年並か多いと予想されている。(±)



図9 うどんこ病の発病葉

(3) 防除対策

- ・被害枝、花そう、葉は見つけ次第せん除する。
- ・開花期前後～落花20日後頃は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・防除指針(令和5年度)：137、140～141、145～146 ページ参照

4 りんごのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：**多い**
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は多かった。(＋)
- ・4月の気温は平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・スプレーオイル（25～50倍）を発芽前に散布する。なお、果樹研究センターにおける平年の「ふじ」の発芽期は3月23日である。
- ・越冬密度を下げるため、粗皮削りを行う。
- ・防除指針（令和5年度）：137、142、144～145、147 ページ参照



図10 葉に寄生したナミハダニ

5 りんごのリンゴコブアブラムシ

(1) 予報内容 発生量：**少ない**
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(－)
- ・4月の気温は平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・発生の多い園地では、ウララ DF を散布する。
- ・防除指針（令和5年度）：137、143、146～147 ページ参照



図11 コブアブラムシの被害葉

6 りんごのカイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量：**やや多い**
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量はやや多かった。(＋)
- ・4月の気温は平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・スプレーオイル（25～50倍）又はトモノールS（25～50倍）を発芽前に散布する。
- ・多発樹では、散布前にワイヤーブラシ等で削り落とす。
- ・防除指針（令和5年度）：137、143～144、146～147 ページ参照



図12 リンゴ枝に寄生する
ナシマルカイガラムシ

7 日本なしの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量はやや多かった。(+)
- ・前年の秋型病斑葉率はやや高かった。(+)

- ・4月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・園地内に残っている落葉は伝染源となるので、落葉処理（園地外での処分、乗用草刈機による粉碎、ロータリによるすき込み等）を徹底する。なお、落葉処理は子のう胞子の飛散が始まる前の3月中旬までに完了する。
- ・芽基部病斑は見つけ次第、基部から切除し、園地外で処分する。
- ・開花直前及び落花直後は最重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が開きすぎないように適期防除に努める。なお、果樹研究センターにおける平年の「幸水」の開花始期は4月14日、開花盛期は4月16日である。
- ・品種や園地によって開花ステージが大きく異なるような場合は、それぞれの品種や園地の開花ステージに合わせて防除を実施する。
- ・防除指針（令和5年度）：148、150～153、156 ページ参照



図13 芽基部の黒星病斑（左）葉の春型病斑（右）

8 日本なしのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は多かった。(+)
- ・4月の気温は平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・スプレーオイル（30～50倍）又はトモノールS（25～50倍）を発芽前に散布する。
- ・多発樹では、散布前にワイヤーブラシ等で削り落とす。
- ・防除指針（令和5年度）：148、150、153～154、157～158 ページ参照



図14 ナシマルカイガラムシの寄生枝（左）と被害果（中右）

9 日本なしのニセナシサビダニ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量はやや少なかった。(－)
- ・4月の気温は平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・越冬密度を下げるため粗皮削りを行う。
- ・スプレーオイル（30～50倍）を発芽前に散布する。
- ・防除指針（令和5年度）：148、150、155、157ページ参照



図15 ニセナシサビダニの被害葉

10 日本なしのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・一部地域で前年の発生量が平年より多かった。(＋)
- ・4月の気温は平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・防除適期はりんぼう脱落期である。防除が遅れると花蕾の食害が発生するので、生育状況を確認し、確実に防除を実施する。
- ・防除指針（令和5年度）：148、153、157～158 ページ参照



図 16 ハマキムシ類の被害花そう

11 ぶどうの黒とう病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。(±)
- ・4月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・被害枝や棚線に残っている巻きづるや穂軸基部（前年のなり跡部）は除去し、園地外に持ち出す。
- ・発芽前及び発芽直前は重要防除時期なので、適期防除に努める。なお、果樹研究センターにおける平年の発芽期は露地栽培の「巨峰」及び「シャインマスカット」で4月15日である。
- ・前年に発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、発芽前にデランフロアブル（200倍）を散布する。
- ・「シャインマスカット」は本病にり病しやすいため、防除を確実に実施する。
- ・防除指針（令和5年度）：159、161～163ページ参照



図 17 黒とう病の葉の病斑(左)と果実病斑(右)

12 ぶどうの晩腐病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量はやや少なかった。(－)
- ・4月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・被害枝、棚線に残っている巻きづるや穂軸基部（前年のなり跡部）を除去し、園地外に持ち出す。
- ・発芽前及び発芽直前は重要防除時期なので、適期防除に努める。なお、果樹研究センターにおける平年の露地栽培「巨峰」の発芽期は4月15日である。
- ・防除指針（令和5年度）：159、161～163ページ参照



図 18 晩腐病の果実病斑

13 かき（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。（－）
 - ・4月の気温は平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策



図19 フジコナカイガラムシ

- ・前年に発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、粗皮削りを行うとともに、発芽前の暖かい日を選びスプレーオイル（25～50倍）又はハーベストオイル（50倍）を散布する。ただし、4月上旬（発芽前）に散布するホームコートと近接散布にならないように注意する。また、4月下旬にアプロード水和剤（1,000倍）を散布する。
- ・発芽前～発芽期にスタークル顆粒水和剤の樹幹塗布を実施する。
- ・防除指針（令和5年度）：165～166、168～169ページ参照

14 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量はやや少なかった。（－）
 - ・4月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±）
- (3) 防除対策



図20 せん孔細菌病の春型病斑

- ・発生が多い園地では防風対策を行う。
- ・春型枝病斑や枯死した枝は見つけ次第せん除する。
- ・4月は初期の予防に重要な時期なので、開花直前防除以降、散布間隔が開きすぎないように注意する。なお、果樹研究センターにおける平年の「あかつき」の開花始期は4月7日、開花盛期は4月10日である。
- ・防除指針（令和5年度）：170、172、174ページ参照

15 もものカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は平年並であった。（±）
 - ・4月の気温は平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策



図21 カイガラムシの寄生枝（左）と被害果（右）

- ・スプレーオイル（25～50倍）又はトモノールS（25～50倍）を発芽前に散布する。
- ・多発樹では、散布前にワイヤーブラシ等で削り落とす。
- ・防除指針（令和5年度）：170～172、174ページ参照

IV 花き・球根

1 チューリップの褐色斑点病

- (1) 予想内容 発生量：並
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
- ・3～4月の気温は平年並と予想されている。(±)
 - ・生育が平年より早い。(＋)
- (3) 防除対策
- ・萌芽期から発病株を抜き取り、殺菌剤の定期散布により予防・防除する。
 - ・防除指針：(令和5年度)188ページ参照



図22 褐色斑点病の小型病斑(左)
大型病斑(右)

2 チューリップのモザイク病

- (1) 予想内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・前年のアブラムシ類の初飛来日(3月30日)が早く、飛来量がやや多かった。(＋)
- (3) 防除対策
- ・モザイク病発病株の抜き取りを徹底し、アブラムシ類の防除薬剤を定期的に散布する。
 - ・防除指針：(令和5年度)189ページ参照



図23 萌芽期・展葉期のモザイク症状



図24 チューリップモザイクウイルス(TuIMV)の感染株(左)と健全株(右)



図25 ユリ潜在ウイルス(LSV)の感染株(左)と健全株(右)

3 チューリップのアブラムシ類

- (1) 予想内容 発生量：並
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
- ・4月の気温は平年並と予想されている。(±)
 - ・冬季の積雪日数が少なかった。(時期＋)
- (3) 防除対策
- ・モザイク病発病株の抜き取りを徹底し、アブラムシ類の防除薬剤を定期的に散布する。
 - ・防除指針：(令和5年度)189ページ参照



図26 チューリップに寄生する有翅アブラムシ

予報内容

多い : 平年比 141%以上
やや多い : 平年比 121%以上 140%以内
並 : 平年比 80%以上 120%以内
やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内
少ない : 平年比 59%以下

予報時期

早い : 平年値より - 6 日以上早い
やや早い : 平年値より - 3 ~ 5 日早い
並 : 平年値を中心として前後 2 日以内
やや遅い : 平年値より + 3 ~ 5 日遅い
遅い : 平年値より + 6 日以上遅い

～農薬危害防止～

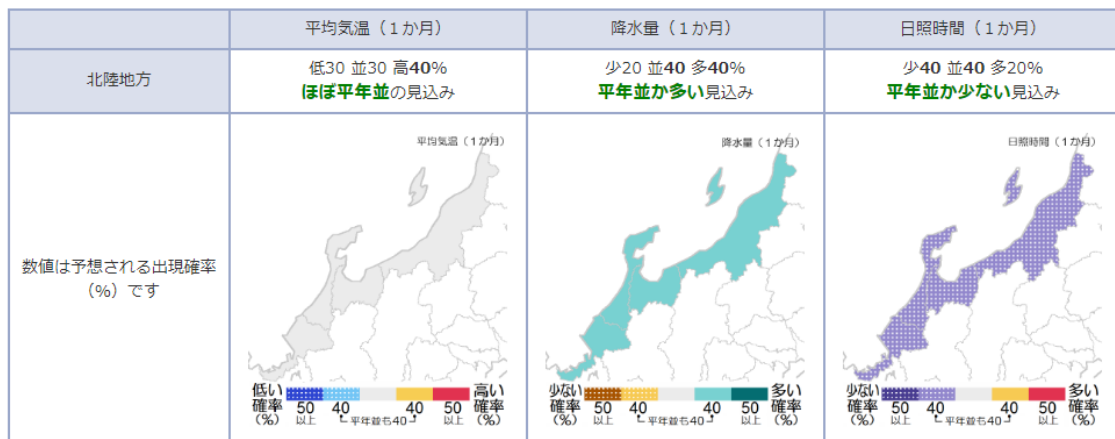
- 1 農薬の保管は適切に→必ずカギがかかるようにする
- 2 周辺への配慮を→散布前の事前周知と農薬の飛散防止に努める
- 3 防護装備を正しく着用→マスク、保護メガネ、防除衣を着用

北陸地方 1か月予報

3月14日
新潟地方气象台 発表

<向こう1か月の天候の見通し>

- ・向こう1か月の気温はほぼ平年並の見込みですが、期間のはじめは寒気の影響を受けやすいため、平年並か低いでしょう。
- ・湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。



図は気象庁ウェブサイト (<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>) より引用